

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	HIV 陽性者への ART 支援体制の強化を通じて、適切な服薬を継続できる ART 患者が増加すると共に、HIV/エイズに関する予防啓発活動を実施することで、事業地におけるエイズの脅威が軽減される。
(2) 事業内容	(ア) ART センターの建設と整備 マウントマクル・クリニック（以下、マウントマクル）及びナンゴングウェ・クリニック（以下、ナンゴングウェ）における ART センターの建設については、当初 4 月下旬から 5 月上旬にかけて開始予定であったが、本建設についての公共事業省からの承認取得に時間を要したこと、また、ナンゴングウェの建設予定地変更に伴い設計に若干の修正が必要となったことから、それぞれ約 1 ヶ月遅れて 5 月 27 日、6 月 10 日の開始となった。なお、両 ART センター共に 10 月末までに竣工の予定である。また、両 ART センターの維持管理や地域における啓発活動等に関する覚書を郡保健局と締結した。 (イ) ART 患者情報管理システムの改善と確立 両クリニックにて ART 患者情報の管理状況の基礎調査を実施した。マウントマクルでは、患者の来院日や次回予約日に関する情報が手書きの台帳にて記載されており、また適切に管理されていないために、予約日に来院していない患者や通院が長期間途絶えている患者の情報を抽出し把握することが困難な状況であることが判明した。現在、既存の台帳を整理し、通院が途絶えている患者を抽出した一覧表を作成中である。この一覧表は脱落者の具体数の把握とともに、ボランティアによる ART 患者の家庭訪問にも今後活用される。ナンゴングウェでは、「スマートケア」と呼ばれる患者情報管理専用ソフトウェアが導入されている。しかし、同院においては同ソフトを操作できる担当者が 1 名のみであり、また他クリニックの業務を兼務していることから、患者情報の更新が遅れがちな状況にあることが判明した。 上記スマートケアは、保健省が国内での普及を目指している通院患者のデータベース作成・管理ソフトウェアである。同ソフトウェアを利用することで、各患者の症状や通院記録、処方、予約状況の把握が容易になる。以上から、マウントマクルにおいてはスマートケアの早期導入と活用促進、ナンゴングウェにおいては既存スマートケアの活用促進を行えば、両クリニックの ART 患者情報システムの改善に有効であると判断した。そこで、当会は両クリニック、保健局及びスマートケア社と連携し、両クリニックの複数の職員と当会職員を対象とするスマートケア操作技術研修実施に向けて計画を策定した。 (ウ) 服薬支援ボランティアの育成と自立支援 ボランティアの選定にあたっては、まずクリニック及び地域保健委員会と共同して服薬支援ボランティアを募り、書類選考を行った上で、クリニックの ART 担当看護師らと共に筆記及び面接試験を実施した。最終的に、各クリニックの管轄規模と ART 脱落者の推定人数を考慮し、マウントマクルより 6 名、ナンゴングウェより 15 名の

	計 21 名の服薬支援ボランティアを選出した。 選出した両クリニックの服薬支援ボランティアを対象に「活動計画策定」ワークショップを開催した。このワークショップではボランティアが ART 患者に対する差別や偏見、服薬中止等の課題を議論、分析した上で、年間の活動計画を策定した。この活動計画に従って「HIV/エイズ基礎知識と服薬支援マネジメントシステム」、「社会心理カウンセリング」ワークショップを開催し、患者に対するカウンセリングや家庭訪問に必要な知識と技術の学習機会を提供した。 上記ワークショップと並行し、両クリニックにおいて週 1 回の定例会を開催している。この定例会では当会職員と服薬支援ボランティアが一堂に会し、患者情報の共有や家庭訪問実施にあたっての工夫についての議論を行っている。また、マウントマクルでは、ART 来院患者に対するグループカウンセリングを新たに開始した。このグループカウンセリングは、クリニックの待合室を利用して週 1 回の頻度で開催しており、ボランティアが ART についての情報を提供するとともに、患者が抱える様々な疑問に答えている。ナンゴングウェでは、予約日に来院しなかった患者及び通院が長期間途絶えている患者の家庭訪問を 5 月より開始し、再受診を促す活動を行っている。 (エ) ART 患者及びその家族に対する啓発活動実施 両クリニックに通院する ART 患者とその家族に対し、HIV/エイズの基礎知識及び ART 服薬支援に関するワークショップをこれまで 5 回実施した (2013 年 6 月末時点)。このワークショップは、HIV/エイズ、ART の基本情報や服薬継続の重要性を知るだけでなく、摂取すべき栄養、陽性者への差別や偏見にどう立ち向かうか、家族が患者をどのように支えるべきかについて講義とグループ・ディスカッションやプレゼンテーションを交えながら、参加者が気付きや解決策を見出す内容である。
(3) 達成された効果	(ア) 郡保健局との覚書締結、建設業者との契約締結を終え、マウントマクル、ナンゴングウェ共に ART センターを建設中である。マウントマクルでは基礎工事が完了し、建方工事に入った。ナンゴングウェでは基礎工事の終盤に入り、コンクリート打ちを実施中である。 (イ) 両クリニックにおける ART 患者情報管理システムの調査を実施し、システムの改善と確立にはスマートケアの導入及び活用の促進が有効であることを確認した。スマートケアの導入及び活用のためにソフトウェア操作に関する研修計画を策定した。 (ウ) マウントマクルより 6 名、ナンゴングウェより 15 名の計 21 名の服薬支援ボランティアを選出し、3 つのワークショップ (「活動計画策定」「HIV/エイズ基礎知識と服薬支援システムマネジメント」「社会心理カウンセリング」) を実施した。これらのワークショップを通じ、ボランティアは服薬支援に必要な不可欠な知識と技術を習得した。また、これらのワークショップを両クリニック合同で開催したことにより、服薬支援ボランティアは双方のクリニックにおける

	ART 患者対応の違いや直面している問題、またその対応策を共有した。6 月末までの時点で、ナンゴングウェでは 25 名の ART 患者に対し家庭訪問を実施した。マウントマクルでは 5 回のグループカウンセリングを実施し、のべ 124 名の来院患者が参加した。 (エ) 6 月末現在、ART 患者及びその家族や親近者を対象にした HIV/エイズ基礎知識と服薬支援に関するワークショップをマウントマクルで 3 回、ナンゴングウェで 2 回の計 5 回開催し、ART 患者 72 名、その家族及び親近者 66 名の計 138 名が参加した。
(4) 今後の見通し	マウントマクル ART センターが 10 月上旬、ナンゴングウェ ART センターが 10 月末に竣工する予定である。竣工後速やかに治療活動を開始できるよう、診察用ベッドや、カウンセリング用の机や椅子等の備品を供与する。 ART 患者情報管理システムの改善と確立については、スマートケア操作技術研修を 7 月中旬に予定している。同ソフトウェアを活用し、クリニック及び服薬支援ボランティアによる ART 患者の通院状況の把握や管理能力を強化する。 ART 患者の家庭訪問に必要な備品として、ボランティアに対し、自転車、ゴムブーツ及びレインコート等を供与する。自転車を供与することで、1 日あたりの家庭訪問回数の増加が期待できる。同時に、自転車を長期にわたり維持管理できるよう、自転車修理に関するワークショップを 7 月に開催する。マウントマクルでは自転車供与後、家庭訪問を本格的に開始すると共に、引き続き来院患者に向けたグループカウンセリングを実施する。グループカウンセリングと来院していない患者の家庭訪問を通じて ART に対する理解が深まり、通院者の増加に寄与することが期待できる。さらに、両クリニックへの相互訪問を行い、ART 患者情報管理システム及び家庭訪問をはじめとする ART 患者支援体制の質向上に向け、課題解決や経験共有の場を提供する。また、今期の振り返り及び次年度の活動に向けた「年間活動評価」ワークショップを開催する。 ART 患者及びその家族に対するワークショップを継続的に実施し、今期事業完了までに約 460 名の ART 患者及びその家族に対し 15 回のワークショップを行う。